

平成29年度文京区アカデミー推進協議会第2回分科会(生涯学習)概要記録

日 時	平成29年6月22日(木) 18:30～20:30
会 場	文京シビックセンター地下1階 アカデミー文京学習室
出席委員	座長 田中 雅文 (日本女子大学教授) 委員 増田 純 塩見 美奈子 黒木 美芳 佐藤 美智子
欠席委員	(なし)
事務局	竹越アカデミー推進課長 上野アカデミー文京所長 萩谷アカデミー推進係長 荒木・宇民・大河原(アカデミー推進係)
資 料	次第・文京区アカデミー推進協議会分科会別名簿・事業パンフレット
(議事) 1 開 会	第1回に引き続き、平成28年度実施事業の点検・評価について委員意見及びまとめのイメージ
2 アカデミー推進 計画の生涯学習分 野における平成28 年度の事業実施状 況の点検及び評価 について ・委員意見 ◎事務局補足説明	<p>座長より開会挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の事業の体系に即して整理して評価したい。 <p>◎事務局説明</p> <p>分野別目標 1-1～1-3 量は 1-1 が多い。分野別目標で良いもの課題があるものに分けてみた。</p> <p>メインになるのは講座だが、講座の種類が多く合う。講座はもっとステップアップしたいという要望がある。など。人材育成も課題になっている。あとはバラバラで括れない部分が残った。</p> <p>(ホワイトボードを使って整理)</p> <p>1-1 講座良い>課題あり 質の向上とレベル。多様性とステップアップが課題か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学・企業との連携、図書館の活用 <p>広報 周知されていない。知られていない。どのように広報すれば良いのか。このままで良いのか。高齢者向けの広報は今まで通り区報で良いところもあるが、中高年でも昔から口コミというのは大切。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS は実は双方向の現代向け口コミと言える。この辺の戦略はととても大事であり、行政の限界でもある。若い人向けではインターネットやスマホ、SNS 口コミの利用が良いのでは。 <ul style="list-style-type: none"> ・1-2 三本柱 1区民プロデュースや2 インタープリター(区民参画)の講座では身近なテーマを取り上げてくれて良い。3 発表の場「学びと活動の循環」行政から提供して区民が利用するというよりも区民自身が生み出して一緒にみんなで学び合うという区民参画型のものをもっと活性化出来たらよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・文科省がかつて知の循環型社会と呼んだような、学んで発表して評価されて又跳ね返ってきて発表だけではなくて区民プロデュースやインタープリターなどで社会貢献的などころまで進んで学びが高まる。そういうもの行政は初期的なものであったり側面的な支援であったりということがここで求められている気がする。

	<p>1-3 良くわからない。と事務局でもコメントあったが、まちづくりやコミュニティについて色々意見を言って貰いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に言うと良くやっているが物足りないという評価。 ・もうちょっとステップアップしたいという要望。 ・深まったり広がったりすると良いが行政は入門的なものが中心という。そこからどこまで次の段階のものが提供できるか、そしてそれが良いのかということも含めての議論が求められていると思う。企業や大学との連携ということになってくる。 ・広報については、これはいくらやっても知られない。そんな簡単には知られない現状がある。 ・区報をみんながみんな熟読している訳ではないし、人は関心があるところを見るわけであって区報が全てではない。 ・行政と区民の間に立つ人の存在があって中間でロコミなどでワーツと広がる仕組みが重要になってくる、若者の仕掛けのような存在があると良いのかもしれない。 <ul style="list-style-type: none"> ・団塊の世代の人達がひと通りの講座を受講し終わってしまっ、「講座難民」になってしまっている現状があるが、そういう人たちは外に行きたいのではなく、アカデミーの中でやりたいという希望がある。 ・リーダーになる人達を見つけて育てることも重要になってきた。 <p>1-3のところは、誰にもいつでもという所に少し段差をつけていくのも必要かも。ターゲットを絞った内容のものを企画するとか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座の講師でもテーマを深く掘り下げてくれる人に出会うと嬉しくなる。横を広げるといよりも深くしていけるイメージ。 <p>◎区の指定管理を受けて導入講座という観点でやっているのもっと深くというよりは薄く広くということをは心がけている。物足りないという所はサークルを作ってもらおうということを考えている。ハウツーものや体操系などはサークルやグループ化しやすいが、そうでないものは生涯学習司の方とかに手伝ってもらおうなども検討するのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レベルを高めるといふか質の向上というテーマに沿って中身を濃くしていくというのを講座という範囲で考える必要があるのかということ。内容が濃くなると人数が減っていくこともある。そうなれば、講座はやめにするとかの判断もある。 <p>◎区でやっているからには費用対効果という一定の判断は必要だが、これは目玉としてやった方が良いという考えがあるならば、やっていった方が良いというものも出てくるかもしれない。</p> <p>◎講座のやり方に問題があるのかもしれないが、現場で関わっていて、「講座」に来る人は、サークルを作ったり、討論したりということを好まない方が多い。座学で一方的に聞くのが好きな方達が圧倒的に多い。やり方を変えると違ってくるのか？</p> <p>◎サークルが出来やすいのはいきいきアカデミア(高齢者大学)の人達で 60 歳以上で 2 年間色々なテーマで一緒に学ぶので仲間になりやすい。普段の座学の講座か</p>
--	---

	<p>らは仲間づくりは出来にくい。</p> <p>◎最近の講座の傾向では、ワークショップがあると満足度が途端に下がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習の全体像を描いて全てを税金でやることは出来ないと思う。税金でやるのはどこか。という所は明確にして出来ない所はどこか、それを WINWIN の関係でどこかにお任せ、連携して出来る所はないのか。という問題。 ・行政というのは導入講座をやるというのは基本的な役割だと思う。それは今、ちゃんとやっているなという評価。物足りないというのはその次の段階の評価。 ・文京区のアカデミー講座に来る方は知を求める知的レベルが高い。仲間と交流というよりは、知を高めたいという。という方が多いと感じる。 ・大学では研究生とか学術研究員という肩書きで在席している人達がいるが、彼らの給料は実際に安く、何が良いかというと大学の図書館が利用できる、誰か先生からアドバイスが受けられるというメリットがある。 ・各大学で制度があると思うので大学側の地域貢献という形で熱心な文京区民の受け入れを考えるとというようなものもあるかもしれない。教員のテーマによっては区民を受け入れることによって新しい可能性が広がるということもあるかもしれない。大学をどう利用するかということと大学も経営が大変なのでどうすれば大学にとってのメリットになるかということも考えて提案出来れば良いかもしれない。 ・区内大学では、単発での講座は提供されているが、連続ものの講座などをお願いできるくらいになると良いかもしれない。アカデミーで何回か講座を受けて続きは大学に来てください。というような。 <p>◎学生向けに TOEIC や秘書検定など資格取得講座の一部を区民にも公開してもらっており、区民に費用の一部を助成しているものもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学が提供してくれる講座に区民の要望がスムーズに通るように連携出来ると良いと思う。 ・回数が少ないとサークルづくりも難しい。手伝いに生涯学習司の人に入ってもらおうとか。 ・人気があるようなものは回数の長い講座の設定が必要かなと思う。グループが作れるようなサポート体制の確立。 ・講座の期間が長い方が良い、と忙しいので短いのが良い、と意見が混在している。どちらが文京区民にとって良いのだろうか？ ・実は先生(講座講師)の力が大きいと感じる。講座回数が少なくても受講後にサークルが出来るときは出来る。学問的なことではなく、講座の先生の魅力は専門分野に長けているというだけではなく、人の組織化や人を繋げていく力もあるということは別なので。両方兼ね備えている人がどの位いるのか。というのがある。区民と共に学ぶという講座の講師を引き受けるからにはその両方の力が必要と感じる。 ・生涯学習というものの捉え方が十人十色だなということを感じている。もっと鳥瞰的にものを見ていかないと対応しきれない。講師力という意味では「学生」相手ではなく、「一般の人」にお話し出来る力が必要と感じる。それにしても文京区民は勉強に対
--	--

する意欲が本当に高いと感じる。

・生涯学習は定年後の話という講師が居たが、今は違うと思う。立体的な講座ができる。

・これからの生涯学習の支援というのは、ありとあらゆる可能性に対応出来るようなシステムづくりが良い。余りに細かいマニュアルで専門課程に進むとか中級講座をつくるとかカチカチとしたものは要らないのでは。行政は導入講座なので専門的に学びたい人に講座はこれでおしまい、シャットダウン。ではなくて、その先の「道をつくる」という可能性。例えば大学との連携でもそうだが、大学の講座は提供してもらっている受け身のものの気がする。こういう研究をしたいという設定や聴講生として受け入れて貰えるということや社会人入学への道もわかるような情報提供が出来ていければ良い。

・「コンソーシアム」は文京区ではどうでしょうか？そこに行けば大学のプラットホームのように情報提供が受けられるというような仕組みですが。

◎何年か前に文京区でも区内大学の地域連携の担当と議論を深めたが、八王子の事例のような形とは馴染まず、京都は大きすぎて参考にならないようであった。まずは大学の個性を大切にしていこうということになった。

・色々な課が生涯学習ということで取り組んでいるということでアカデミーだけが背負わなくて、もっと気楽に考えて良いのでは。

1-1(1)まとめ 多様な講座を実施しているが、入門的なものが主で物足りないという部分で、今後ステップアップしていくのにはどうしたら良いのか。サークル化というものも講師力や受講生の時代による環境の変化というものがある。マネジャーやファシリテーターという方達がいれば上手くいくかもしれない。あるいは大学との橋渡しをもっと上手くやればうまく行くかもしれない。一方でいきいきアカデミアの方はうまくいっていることは良い。充実の具体的な方法としては又、今後。

1-1(3)障害者と外国人、子育て中の人達に対する支援というのはどうでしょうか。

・平日の昼間、アカデミー文京で実施する講座では希望があれば保育室を設けている。対象は？

◎3歳から未就学児まで。

・一時保育というものが黎明期の頃は仲間同士で面倒を見ていた。それが今では行政がやってくれるようになっているが、行政がやると融通が利かない部分もある。

◎計画冊子に掲載されていないが各課で単発で実施している講座も各種ある。

・通信講座に対しては放送大学も充実しており、特に要望はない。

◎外国人向けということでは、国際交流分野の方にお任せする。

◎障害者向けということでは、手話通訳をつけている講座もある。語学と音楽講座以外は希望があればつけている。

・街歩きなども目が見えない方も普通に参加してきているので、特別感はなくなってきた

ているので、それは逆に良いことなのでは、と思っている。普通に案内している。

◎某大学では視覚障害者の学生無向けに1週間前には資料を全て点字で用意するという話も聞いた。

- ・障害のある方が施設の運営委員になっていて活動していた時期もあったがその後は障害のある方が委員にはなっていない。

◎広報は、全体に関わること。生涯学習相談もせっかく良いものなのに知られていないという問題。知らせるものも出来ていないが、情報収集も出来ていないという問題もある。インプットアウトプットが機能していない。

- ・2階の行政情報センターはどういうものか。

◎情報を求めてきた人に提供している場所。区で発行している資料は全て提供しているが、アカデミーの講座内容と限定するとアカデミーを紹介される。

- ・その行政情報センターの存在そのものも知られていない感じがする。ロコミの力は大きい。
- ・学生と生涯学習の現場に行く、現場の人に話を聞くと素晴らしいことがわかるが、その現場の情報を知らない。
- ・今の若者は写真中心とインスタグラムで情報収集。どうやったら注目を集められるのか。
- ・多摩市では講座の前にワークショップを開催したり学生を呼んだり、実行委員会に学生を入れたりしている。学生から見るとボランティア活動は奉仕ではなくて自己実現の場であり、面白いものということになっている。

◎文京区でもSNSを通じてコミュニティの場をつくり、情報提供をして、行政とつながりにくい学生とまず仮想現実の場で繋がり、次に現実においてボランティア活動などで活躍してもらえるようなイメージで企画を進めているところ。委託で実施するが、学生にも企画に入って貰えるようなことも考えている。

1-2 区民プロデュース講座など

- ・入門講座は行政が提供していくが、ステップアップした講座は区民プロデュースやインタープリターの方達が企画していくのが良いのでは。
- ・人が人を繋ぐ。意欲のある人たちが新しいものを生んでいる。
- ・インタープリターはNo.109、110 に入っている。生涯学習司はまさにプロデューサーの役目。
- ・養成講座に出たから出来るというものではなく、講座に出た後に実践することがまた自分にとっての生涯学習になっていく。刺激になるし、やりがいもある。

◎講座の後に実践をやるのも条件で講座を受講してもらう仕組みは「アカデミアサポーター」になっている。生涯学習司とインタープリターは、財団やアカデミー推進課のために何かやってくださいという位置づけにはなっていない。地域の学びのお手伝いということで養成しているのでも地域で活躍している人が多い。財団が事業の委託ができるのは団体になってくれている生涯学習支援者の会やインタープリターの会(30人

位参加)などになっている。

・生涯学習司、インタープリターは良くやってくれている人が多いという評価で良いと思う。

(発表の場については、コメントなし。)

1-3 交流仲間づくり

・サークル連絡会では、高齢化が進んでいるのと連絡会に加入するには敷居が高いといわれている。一応、社会教育関係団体に登録しているサークルは加入を受け入れている。・ふれあいサロンなども話題になったが、サークル連絡会ではどうですか？

・ひと月1回など代表者会議などを開いて問題点や講演会の開催などを行っている。貴重な情報交換の場。個人でサークル連絡会に入りたいというニーズがある。

・そういう人達の受け皿を考えるのも課題なのか。

・上手くそういう人たちが繋がれる場があると良いかもしれない。既存のサークルに入るとするのは実は大変なのかもしれない。

・「学びを通じた交流、仲間づくりの推進」という目標なので、人のつながりを考えるというのはコミュニティの概念をイメージした方が良い。が、ひとつの限界かもしれない。ワークショップを通じて新しいつながりも出来るかもしれない。

◎「街コン」というのが先生のイメージに近い気がする。

・179 番の文京学について

・無料講座の企画には「文京学」を必ず入れるという時期があった。

・文京区の地域と絡めて「かみんぐ文の京シリーズ」という講座を3回行った。とても好評だった。

・ふるさと歴史館ももっと活用できると良い。学芸員もいて友の会もある。

◎ふるさと歴史館については文化芸術分野の方で評価する。